

ヤナギダコ (みずだこ)



生態的特徴等

【生態】 分布は北海道から茨城県沖の水深 100m 以深の海域である。常磐海域での産卵期は 7～8 月で、2 歳で約 1 kg、3 歳で 2 kg 以上に成長し、大きなものでは 5 kg に達する。寿命は 3 年以上と推定されるが、生態的知見は少なく、生活史は不明な点が多い。

【漁法と盛漁期】 主に底曳網で漁獲され、平潟や大津、久慈漁港で水揚げが多い。漁期 (9～6 月) をとおして水揚げされるが、冬季の水揚げは少ない。本県の市場ではヤナギダコのことを「みずだこ」と呼ぶが、標準和名ミズダコとは別種である。

【利用】 茹でた状態で流通・食されることが多い。

資源量は低位・横ばい傾向

(漁獲量) 漁獲量は、主に底曳網漁業で漁獲されるため、暦年 (1～12 月) ではなく底曳網の漁期 (9 月～翌年 6 月) で集計した。H14～18 年は 400 トンを超えていたが、H22 年以降は 300 トンを下回り、R5 年は 90 トンと減少傾向が続いている (図 1)。

(水準と動向) 資源水準は、過去の底曳網の漁獲量から推定した CPUE (kg/隻日) の推移から「低位」、動向は、直近 5 漁期の CPUE の傾向から「横ばい」とした (図 2)。

水準



動向

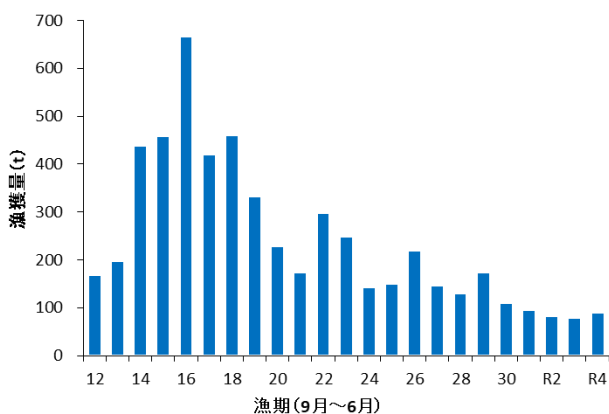
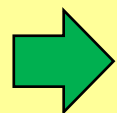


図1 ヤナギダコの漁獲量(水試システム, 属地)

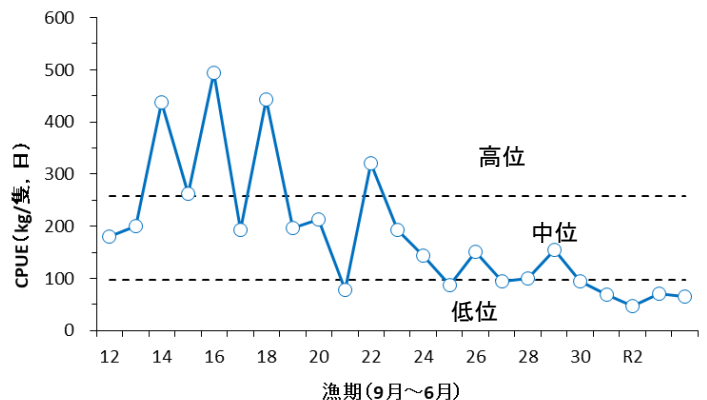


図2 ヤナギダコのCPUEの推移(茨城県代表地区 底曳)

【全国の漁獲動向】

主な産地は北海道、福島などで、北海道では数千トンの水揚げがある。